

(公聴会公述人の意見)

12. 水系全体

○平成19年2月22日（埼玉県さいたま市）

利根川水系河川整備計画 公述希望届出書(水系全体)

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
1	60歳以上	男性	茨城県	取手市	<p>私は利根川水系河川整備計画策定に際し、流域住民の意見を軽視する国土交通省の姿勢に対し、異議を申しあげるべく公述いたします。</p> <p>1. 1997年に改訂された河川法の精神に則れば、計画案策定に流域住民を加え、川と関わりながら生きている住民の経験と知恵を採り入れるべきと考えます。</p> <p>2. 国土交通省による計画はどうしても治水に偏重します。川は利水や環境の視点も加え立体的に考えねばなりません。その意味でも利水の受益者である住民、環境問題に取り組む市民団体の声は重視すべきです。</p> <p>3. 上記の観点からしますと、現行の有識者会議、公聴会のあり方は結果として「意見は聞き置く」に留まり、河川法の精神には程遠いものとなっています。</p> <p>4. 流域住民の自治を尊重した「淀川水系流域委員会」の休止、本計画の策定手順を見る時、国土交通省の非民主的な動きに主権者として強い危機感を覚えます。</p>	<p>・利根川水系河川整備計画の策定に際し、流域住民の声を封じる国土交通省の非民主的な進め方に、主権者として深い危機感を覚えた。</p> <p>・住民の声は聞き置くという姿勢に、河川法の持つ住民参加の精神はみじんもありません。</p> <p>・河川行政ほど間接民主主義の無力さを感じるのはありません。</p> <p>・政策決定の権利は国民の側にある。</p> <p>・河川法の初心に返り、住民参加の淀川方式の採用を強く望みます。</p>	<p>豊かでうるおいのある質の高い国民生活や、良好な環境を求める国民のニーズの増大等の最近の動きに的確に答えるため、平成9年に河川法が改正され、河川整備の基本となるべき方針に関する事項を定めた「河川整備基本方針」と、今後20～30年間の具体的な河川整備の目標や河川整備の内容を定めた「河川整備計画」を策定することとなっています。そして、河川整備計画の案を作成する場合には、必要に応じ、公聴会の開催など関係住民の意見を反映させるために必要な措置を講ずることとなっています。</p> <p>このため、河川整備計画の策定にあたっては、河川のもつ特性や流域の特性、地域とのつながりなど地域の実情を踏まえ、各河川ごとに工夫を行いながら様々な方法で意見聴取を行っているところです。</p> <p>利根川水系については、1都5県にわたり流域面積が広く、河川や地域の特性に応じ多様な意見もあることから、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺うことができるように、インターネットやはがきによる意見募集や、流域を本・支川毎に5ブロックに分け、各ブロックごとに複数の会場を設けて皆様のご意見を伺ってきました。頂いたすべてのご意見等に対しては、河川管理者としての考え方をお示しするとともに、これからもこのような取り組みを通じて、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺ってまいります。</p>

受付 番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
2	40歳 代	女性	千葉県	佐倉市	<p>新しい利根川放水路計画では、洪水時に印旛沼を 経由して流量調節し、東京湾に流すことになってい るが、問題点が多く、実現性が乏しい。流域住民と して現実的な治水対策を求める。</p> <p>1. 印旛沼は自流域の洪水処理で手一杯であり、利 根川の洪水を受け入れる余裕はない。流域の市街 化の進行によって都市排水が増加したが、沼への 直接放流が厳しく制限されており、数年おきに内水 被害に対応している佐倉市の実情を把握するべき である。</p> <p>2. 治水容量を増やすために沼の大規模掘削が必 要となるが、環境面での検証がどの程度なされたの か、疑問である。生態系が大きく変えられることによ る漁業へのダメージや飲料水源としての沼の水質 について憂慮せざるをえない。</p>	<p>●利根川放水路計画が流域の実情を踏まえた実効 性のある内容にしていきたい ■印旛沼周辺の内水被害の状況を調査すべきであ る ○印旛機場、大和田機場で利根川の逆流によって 起こる外水は防げるが、内水被害は減少していな い ○農地が減少し計画以上の都市排水が流れ込ん でいる ○佐倉市は印旛沼の水質浄化を含めた治水対策 事業を直轄事業として早期実施を要望している ○洪水被害が多発している佐倉市の実情を調査 し、現場サイドの視点から解決策を検討すべきであ る ●印旛沼は自流域の洪水処理で手一杯であり、利 根川の洪水を受け入れる余裕は無い</p> <p>○新計画により印旛沼の自然環境がどのように改 変され漁業等が住民生活にどのような影響がある か知らされていない</p>	<p>利根川水系河川整備方針では、印旛沼を調節池 として活用し放水路機能を持たせることにより、花 見川の現在の改修計画を大きく変えることなく、利 根川から毎秒1,000m³の分派を図ることとされてい ます。これにより利根川の放水路としての機能だけ ではなく、印旛沼周辺の内水被害の軽減が見込ま れると考えています。また、分派した洪水を印旛沼 内に滞留させないことにより、植物プランクトンの増 殖が抑制されるなどの水質改善の効果も期待され ます。 今後は、地元関係機関や地元の要望、自然環境 や地域社会への影響等も踏まえ、計画の具体化に 向けて検討を進めたいと考えています。</p>

受付 番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
					<p>3. 流下能力をアップするために、長門川と印旛捷水路を大幅に拡幅しなければならないが、多数の家屋移転を伴う新計画は、旧計画と同様、机上の空論としか考えられない。</p>	<p>■新利根川放水路計画は旧計画と同様、机上の空論で実現性が乏しい</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成18年の関東地整の市町村説明会で、500m³/sの分派量と説明があった ○分派量は印旛沼の浚渫はせずにHWL4.25mのまま大和田機場で東京湾に排水すると説明があった ○利根川上流の降雨が印旛沼へ到達するのは2～3日かかり、そのときは印旛沼周辺の雨はやんでいるため受け入れ可能と説明があった ○しかし、資料によると、現在は河川改修が進み上流からの洪水は通常1日程度で印旛沼に達する ○現場の認識は、流域の都市化による印旛沼への流入量の増大で、大洪水時は平水位に回復するのに6～7日程度必要である ○印旛沼堤防の沈下により、印旛沼の治水容量は2,130万トンから1,020万トン程度まで減少している ○現状でも利根川への排水機場の操作は難しい判断で行っている ○平成8年台風17号では、稲の収穫が終わっていたため水田が遊水地として役割を果たし難を逃れた ○大和田機場は120m³/sの排水能力に対し、90m³/s程度しか排水できていない ○新計画は河川や捷水路の拡幅のため多数の家屋移転を伴う <p>■河川整備計画策定のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○農水省、水資源機構など、さまざまな事業主体による計画が進められ、計画をつけ合わせ整合性を持たすことが求められている ○印旛沼流域水循環健全化会議ではさまざまな角度から地道な取り組みを進めている ○印旛沼は利水面でも大きな役割があり、治水容量と水位の調節の問題もある ○費用対効果や環境への影響を検証しながら試行錯誤で進めている ●国が流域の実情や取り組みを無視した形で整備計画を策定することはできないので、公開討論会など流域住民と双方向に議論ができる場を設け、真に実効性のある現実的な治水計画をつくるべき 	

受付 番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
3	60歳 以上	男性	東京都	台東区	当協会は郵政大臣認可の法人としてラジコン用電波の適正な運用確保とラジコンの健全な普及発展に努めている。今ラジコンは国民の余暇活動に潤いと明日への活力を生む又将来を担う青少年には模型を通じ科学する心を醸成し感性を育む健全なホビーとして著しく増大している。特に安全が問題となる飛行機等愛好家は今や50万人とも推測(全体では約500万人)され主に河川敷地や私有地を借用して楽しんでいる。近年、ルール・マナーを守らない一部運用者の横行に不安を抱く地域住民の声が高まり飛行場確保が困難になっている。そのため当協会は業界と連携し入門者の安全運用及び地域の不正運用者への適正な運用指導を目的にH17インストラクター制度を導入した。現在各クラブに配置されたインストラクターを通じ安全運用の遵守等適正化に努めている。インストラクターを配置し適正な運用に努めているクラブには河川敷地占用許可への特段の配慮をお願いしたい。	<p>○ラジコン電波安全協会として、安全にラジコンを飛ばし、地域の人たちに迷惑をかけないための周知、啓発を事業としてやっている</p> <p>○ラジコンを通じて科学する心を醸成し感性をはぐくむ力もある</p> <p>○ラジコンを運用する方々に、安全運用、地域の人たちに迷惑や不安を与えないよう指導している</p> <p>○河川敷地はラジコンの運用に適しているので、河川法の占用許可をとって安全に使用するよう指導している</p> <p>○インストラクター制度を設け、インストラクターを通じ不正な運用をしている方々へ指導している</p> <p>○正しく運用している方はたくさんいるが、不正な運用している一部の方が原因で地域の人たちの同意がとれずらくなっている</p> <p>●インストラクターを配置し、適正に運用しているラジコンクラブには、優先して占用許可をお願いしたい</p> <p>●河川敷地のスポーツ公園にラジコンのための公園を配置してほしい</p>	<p>ラジコン飛行機については、その利用形態を自由な利用にのみ委ねた場合、他の一般公衆の河川敷地の利用及び周辺住民に対し迷惑をかける恐れがあるため、無秩序なラジコン飛行機の利用者に対しては河川巡視等において注意喚起しています。</p> <p>また、小屋などを建てたり、滑空場を整備するなどラジコン飛行場として占用を行う場合は占用許可準則等に基づき審査することになりますが、地域の理解を得られることが前提となります。</p> <p>実際に、関東地方整備局管内では4件の許可事例があります。</p>

受付 番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
4	60歳 以上	女性	栃木県	宇都宮市	<p>鬼怒川の支流湯西川に計画されている湯西川ダムの建設により、地域の生態系を構成する貴重な動植物が失われる。近年行われた環境に関する補足調査によると、環境省のRDBで絶滅危惧種にランクされている種が多数報告されており、この地域が生物多様性に富んだ地域であることがはっきりした。</p> <p>一方鬼怒川の治水計画では、湯西川ダムが計画される以前(73年)と以後(85年)において、石井地点におけるダム調節後の洪水流量(計画高水流量)が同じであった。つまり、鬼怒川の治水計画は五十里ダム、川俣ダム、川治ダムで完結していた。また、06年2月に策定された利根川水系河川整備基本方針では石井地点での計画高水流量は変更されていたが、水海道地点での数字は従来と同じ数字であり、新たな矛盾を含むものであることが判明した。鬼怒川の治水上、湯西川ダムは屋上屋を重ねる不要なダムであり、貴重な生態系に悪影響を及ぼすダム建設は不要である。</p>	<p>・昭和60年に五十里ダム、川俣ダム、川治ダムに加え湯西川ダム基本計画が策定されましたが、湯西川ダムを加えたことによる効果はゼロである。</p> <p>・湯西川ダム建設予定は周辺は生物多様性に富んだ自然豊かな地域である。水没予定地周辺には、風穴があるとともに特異な植物が生育している。また、イヌワシ、クマタカ、オオタカ、オジロワシ、オオワシ、ハヤブサの6種類の猛禽類が確認されており、ダム建設がこれらの貴重な生物種に影響を与える。</p> <p>・首都圏の水需要は、減少方向に向かっており、水あまりの現状を考えると新たな水源開発は不要である。</p>	<p>湯西川ダムは、鬼怒川及び利根川下流地域の洪水被害の軽減、既得かんがい用水などの取水等に必要な水量の確保、宇都宮市及び茨城県・千葉県の新規都市用水の確保を目的として、利根川水系湯西川(栃木県日光市)で建設を進めている多目的ダムです。</p> <p>湯西川ダムが完成すると、最大毎秒810m³の洪水調節を行い、利根川水系の上流ダム群とともに、下流部の洪水被害を軽減し、沿川地域の人々の生命・財産を守ります。また、3県(茨城県、栃木県、千葉県)の水需給に応えるため、都市用水として毎秒約2.5m³の供給する施設です。現在、河川の水量が豊富なときに限って取水できる、暫定豊水水利権として毎秒約0.8m³(約30%)が既に使われており、早急に暫定豊水水利権の解消を図るべく安定した水供給の水源確保が重要であると考えています。</p> <p>湯西川ダムの建設にあたっては、周辺の自然環境に配慮し、必要に応じて専門家の意見を聴きながら環境対策等を実施しています。</p> <p>上記の理由から、河川管理者としては事業を早期に完成させ、効果を発現させる必要があると考えています。</p> <p>今後とも、ダム建設により移転を余儀なくされる住民の方々の生活再建を最優先に進め、地元関係者、関係自治体のご理解とご協力を得ながら、事業の早期完成を目指します。</p>

受付 番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
5	60歳 以上	男性	埼玉県	三郷市	<p>利根川流域住民を洪水氾濫の危険性から守るために、予算の枠内で最大限の効果のある、真に有効で且つ合理的な治水計画の策定を求める。</p> <p>①旧河川法時代においては現実性のない過大な基本高水流量が設定され、そのために必要性・緊急性のないダム計画が推進されてきたので、河川整備計画の洪水目標流量は科学的な根拠が明確な値を設定すべきである。</p> <p>②旧河川法時代は長期目標として位置づけられ、本来は緊急性のない事業(例. 渡良瀬遊水池の大規模掘削事業)までが推進されようとしてきたので、整備計画では今後30年間に実施すべき優先順位の高い、緊急性のあるものに限定すべきである。</p> <p>③河川予算の枠は限られているので、その中で最大限の効果のある、真に有効な事業を選択すべきである。膨大な予算を伴うにもかかわらず、治水効果が疑問視されるダムではなく、効果が確実な河道整備を中心とした治水計画を策定すべきである。</p>	<p>・不要不急の遊水地大規模掘削やダム建設に巨額な費用を投じるべきではありません。</p> <p>・治水計画の基本原則、これは最小の費用で最大の効果がある治水対策の選択ということ。</p> <p>・治水効果が確実な河道整備、堤防かさ上げや補強、河床掘削を速やかに推進する河川整備計画を策定すべきであります。</p> <p>・公聴会を住民と行政が十分議論できるそういう公聴会にかえるべきです。</p>	<p>河川整備計画の策定にあたっては、個々の河川や地域の特性を踏まえて、堤防や遊水地、ダムなどを総合的に検討し、最も適切な組み合わせで実施することが必要と考えております。</p> <p>利根川水系河川整備計画においては、概ね50年に一回の確率で生起すると予想される洪水流量(支川は30年)を対象にして、上下流や本支川のバランスを確保しつつ、河道の整備と洪水調節施設の整備をバランスよく行うことにより、効率的な治水計画を策定することとしております。</p>

受付 番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
6	60歳 以上	男性	茨城県	古河市	<p>渡良瀬遊水池の湿地再生と大規模掘削事業は両立しない。かつて第二貯水池を建設する計画があったが、周辺住民の反対等によって5年前に中止が決定した。住民の反対は、予定地である第二調節池のかけがえのない自然が根底から破壊されることが予想されたからであったが、その同じ場所で、治水容量増強という理由で大規模掘削事業が浮上してきている。しかし、これも遊水池の自然を大きく破壊するものである。乾燥化の方向にある遊水池で湿地再生を兼ねて掘削事業を行うという話も出ているが、湿地再生と大規模掘削は別物であって、決して両立するものではない。湿地再生のために必要な掘削はきわめて部分的なものであるのに対して、治水容量増強で予定されている大規模掘削は500万m3以上という大容量であるから、遊水池の現在の植生が根底から失われることは確実である。湿地再生に名を借りて自然を大きく破壊する大規模掘削をすすめてはならない。</p>		<p>渡良瀬遊水池は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、の4県にまたがる日本で最大の遊水池で、渡良瀬川、巴波川、思川の洪水流を受け入れることにより、人口・資産の集中する利根川・江戸川下流域を守るという、治水上重要な役割を担っています。この渡良瀬遊水池は、広大なヨシ原に代表されるように、良好な動植物の生息・生育の場としての豊かな湿地が残されていることから、未だ不足している治水容量確保にあたっては、湿地の保全と再生に配慮した手法の検討を進めます。</p>

受付 番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
7	50代	男性	東京都	江戸川区	<p>今回の河川整備計画の作成方法には大いに疑問があります。国が指名した有識者だけで議論し、一般市民を議論の場所から排除したことです。これは新河川法の精神を無視した言語道断の行為です。今回の公聴会終了後に、有識者と市民が議論できる機会を必ず作るべきです。</p> <p>次に計画内容への疑問です。由々しき問題点は、進行中の大規模事業へのチェックを全く行っていないことです。群馬県の八ッ場ダム事業では、途中で事業費が一気に膨らみ、国と自治体の負担額も大変過大です。地元では将来展望を悲観し、住民がどんどん流出しつつあります。「国にだまされた」というのが偽らざる心情でしょう。個別の事業を精査していくと、一体誰のために公共事業を行っているのか疑問だらけです。新しい事業を起こす前に、進行中の事業をしっかりと見直すべきです。</p>		<p>・豊かであるおいのある質の高い国民生活や、良好な環境を求める国民のニーズの増大等の最近の動きに的確に答えるため、平成9年に河川法が改正され、河川整備の基本となるべき方針に関する事項を定めた「河川整備基本方針」と、今後20～30年間の具体的な河川整備の目標や河川整備の内容を定めた「河川整備計画」を策定することとなっています。そして、河川整備計画の案を作成する場合には、必要に応じ、公聴会の開催など関係住民の意見を反映させるために必要な措置を講じることとなっています。</p> <p>このため、河川整備計画の策定にあたっては、河川のもつ特性や流域の特性、地域とのつながりなど地域の実情を踏まえ、各河川ごとに工夫を行いながら様々な方法で意見聴取を行っているところです。</p> <p>利根川水系については、1都5県にわたり流域面積が広く、河川や地域の特性に応じ多様な意見もあることから、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺うことができるように、インターネットやはがきによる意見募集や、流域を本・支川毎に5ブロックに分け、各ブロックごとに複数の会場を設けて皆様のご意見を伺ってきました。頂いたすべてのご意見等に対しては、河川管理者としての考え方をお示しするとともに、これからもこのような取り組みを通じて、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺ってまいります。</p> <p>・また、ご指摘のハツ場ダムについては、吾妻川流域および利根川本川下流の洪水被害の低減を図り、ダム下流に位置する名勝吾妻峡の良好な景観を維持するための流量確保するとともに下流1都4県の新規都市用水を確保するため、必要な施設であり、早期に完成させて、効果を発現させる必要があると考えております。なお、ハツ場ダムについては、平成10年度より導入している再評価システムにより、定期的に事業の再評価を実施しているところです。</p>

受付 番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
					カスリーン台風時の洪水流量のチェックを含めて、治水計画の基本事項の見直しを強く求めます。		<p>・昭和55年に策定された利根川水系工事実施基本計画(以下「工事実施基本計画」という。)でカスリーン台風が再来した場合の洪水流量の算定に用いた流出計算モデルは、雨量から洪水流量を計算する一手法である「貯留関数法」を用いており、この手法は国土交通省が管理する河川の洪水の流出計算で一般的に使用されている手法です。利根川の流出計算モデルについては、昭和33年及び昭和34年の実績洪水を用いてモデルの適合度の検証を行っており、流出計算モデルによる計算結果(洪水流量及びその時間的变化)は実測値に近似して実績洪水を適切に再現できています。</p> <p>さらに平成18年2月の利根川水系河川整備基本方針(以下「基本方針」という。)の策定時には、同モデルにより昭和57年及び平成10年の実績洪水でも検証を行い、実測値に近似して実績洪水を再現できていることから、この流出計算モデルを用いて算出した洪水流量は十分信頼できるものであると考えています。</p> <p>・工事実施基本計画において基本高水のピーク流量は、貯留関数法により計算した既往最大流量と概ね200年に1回程度生起する確率流量とを比較し、いずれか大きい方の値を採用するものとして毎秒22,000m³と定めています。</p> <p>また、基本方針の検討においては、工事実施基本計画策定後の水理・水文データの蓄積等を踏まえ、基本高水のピーク流量について次の3つの視点から検証し、基本高水のピーク流量(毎秒22,000m³)は妥当であると判断したものであります。</p> <p>①工事実施基本計画策定後に計画を変更するような大きな出水は発生していません。</p> <p>②蓄積された流量データを各種確率統計手法により概ね200年に一度程度発生する洪水流量を算出。その範囲は毎秒20,200~30,300m³です。</p> <p>③昭和22年9月洪水の実績降雨を用い、河川整備等による氾濫量の減少を考慮して八斗島地点のピーク流量を算出すると概ね毎秒22,000m³です。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
8	40代	女性	東京都	小平市	<p>吾妻川上流に計画中のハッ場ダムは、起債を含め1兆円に近い税金が注ぎ込まれることになるが、利水・治水上の必要性がなく、地滑り等をひきおこす危険性が高いと、6都県で支出差止めを求める住民訴訟が起こされている。そもそもダムは、堆砂により徐々に貯水量が減り、機能が低下していく。特にハッ場の場合、強酸性の水を中和する石灰を流し込んでいるため、中和生成物により一層急速に堆砂が進むはずである。また、異常気象による局地的豪雨の際も、一地方の降雨しか貯めないダムの効果は限定的である。特に、吾妻川上流の気象は長野県型で、利根川本流とは雨の降り方が異なるので、カスリーン台風の再来計算でもハッ場ダムの治水効果はゼロになる。このように多額の費用を要し、生態系や景観を破壊し、額面通りの効果も発揮しないダムを造るより、河道整備や水田も利用した遊水池、氾濫原などによる治水対策の方が現実的であり、それが本来の川の姿でもある。</p>	<p>・利根川は既に多くのダムや堰で自然の流れを阻害され、生態系がずたずたになり、深刻な漁業被害が生じているというを確認しました。美しい渓谷や遊水池も残されていますが、今度の整備計画では、そういう貴重な自然豊かな場所でも、ハッ場ダム、利根川放水路など多くの無謀な事業を行おうとしている。</p> <p>・地盤がもろく危険である。</p> <p>・由緒ある川原湯温泉を沈め、吾妻渓谷の景観を壊すものである。</p> <p>・イヌワシ、クマタカなどの絶滅危惧種の生存を脅かすものである。</p> <p>・強酸性の水を中和するため、その中和性生成物で堆砂が急速に進み、上流の汚濁物質の流入でダム湖の水質が悪化する。</p> <p>・2万2,000トンという基本高水が過大である</p> <p>・水需要の予測を過大に行っている。</p> <p>・公聴会意見募集の広報について。幅広く公平に意見を聞きたいというのであれば、この公聴会と意見募集ことこそお金をかけて新聞に広報するべきではないか。省益のためではなく、国民の知る権利のためにこそ私たちの税金を使うべき。</p>	<p>・ハッ場ダムは、吾妻川下流及び利根川下流地域の洪水被害の軽減、ダム下流に位置する名勝吾妻峡の良好な景観を維持する流量の確保、下流1都4県の新規都市用水の確保を目的として、利根川水系吾妻川(群馬県吾妻郡長野原町)で建設を進めている多目的ダムです。</p> <p>ハッ場ダムが完成すると、最大毎秒2,400m³の洪水調節を行い、利根川水系の上流ダム群とともに、下流部の洪水被害を軽減し、沿川地域の人々の生命・財産を守ります。また、ハッ場ダムは1都4県(東京都、群馬県、埼玉県、千葉県、茨城県)の水需要に応えるため、都市用水として最大約22m³/sを供給する施設です。現在、河川の水量が豊富なときに取水できる暫定水利権として約11m³/s(約50%)が既に使われており、早急に暫定水利権の解消を図るべく安定した水供給の水源確保が重要であると考えています。</p> <p>ハッ場ダムの建設にあたっては、周辺の自然環境に配慮し、必要に応じて専門家の意見を聴きながら環境対策等を実施しています。</p> <p>上記の理由から、河川管理者としては事業を早期に完成させ、効果を発現させる必要があると考えています。</p> <p>今後とも、ダム建設により移転を余儀なくされる住民の方々の生活再建を最優先に進め、地元関係者、関係自治体のご理解とご協力を得ながら、事業の早期完成を目指します。</p> <p>・カスリーン台風では、吾妻川上流にあまり雨が降らなかったため、吾妻川上流にはたくさんの雨が降った場合と比べてハッ場ダムの効果は小さくなりますが、過去の例を見ても雨の降り方は様々であり、現在、利根川本川の洪水防御を目的として洪水を調節する施設がない吾妻川流域でハッ場ダムを建設することが、利根川の治水、重要だと考えています。今後、河川整備計画のたたき台を公表するに際しては、わかりやすい説明に努めます。</p> <p>・これまで、インターネットやはがき、公聴会により皆様からご意見を伺っておりますが、これらの取り組みを行うにあたり、専用のインターネットホームページ開設やポスター、チラシなどによる周知に努めてきました。広報・公聴への支出については、そのあり方が厳しく問われているところではありますが、今後ともできるだけ工夫を行いながら、幅広く丁寧にご意見を伺えるよう努めていきます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
9	50代	男性	群馬県	高崎市	<p>水源県群馬の一県民として、河川法に定める住民参加のあり方も含め、川の治水、利水、環境などについて意見を述べたい。</p> <p>具体的な公述内容 大型公共事業の代表とも言える八ッ場ダム事業については本当に必要なのかという疑問の声が多く群馬県民にあります。</p> <p>国や県は、群馬県民に対して十分な説明責任を果たしていないように思われます。</p> <p>私が考える、八ッ場ダム事業の問題点と、事業者としてやっていただきたいこれからの説明責任のあり方等について公述したい。</p>		<p>八ッ場ダムは、吾妻川下流及び利根川下流地域の洪水被害の軽減、ダム下流に位置する名勝吾妻峡の良好な景観を維持する流量の確保、下流1都4県の新規都市用水の確保を目的として、利根川水系吾妻川(群馬県吾妻郡長野原町)で建設を進めている多目的ダムです。</p> <p>八ッ場ダムが完成すると、最大毎秒2,400m³の洪水調節を行い、利根川水系の上流ダム群とともに、下流部の洪水被害を軽減し、沿川地域の人々の生命・財産を守ります。また、八ッ場ダムは1都4県(東京都、群馬県、埼玉県、千葉県、茨城県)の水需要に応えるため、都市用水として最大約22m³/sを供給する施設です。現在、河川の水量が豊富なときに取水できる暫定水利権として約11m³/s(約50%)が既に使われており、早急に暫定水利権の解消を図るべく安定した水供給の水源確保が重要であると考えています。</p> <p>八ッ場ダムの建設にあたっては、周辺の自然環境に配慮し、必要に応じて専門家の意見を聴きながら環境対策等を実施しています。</p> <p>上記の理由から、河川管理者としては事業を早期に完成させ、効果を発現させる必要があると考えています。</p> <p>今後とも、ダム建設により移転を余儀なくされる住民の方々の生活再建を最優先に進め、地元関係者、関係自治体のご理解とご協力を得ながら、事業の早期完成を目指します。</p>

受付 番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
10	60歳 以上	男性	茨城県	取手市	<p>30年間、稲戸井遊水地を見続けてきた者として、利根川水系における河川整備計画の「稲戸井調節池の運用と大規模掘削」について、見直されるよう求めます。</p> <p>稲戸井調節池(現在は遊水地)は利根川中流域では規模の大きな河川林があり、遊水地は、洪水期に利根川から水が入り、遊水地の役割とともに、水が入ることによって動植物に良い環境を与えています。稀少種の植物も多く生育し、小動物も生息し、野鳥も多く見られます。特に1年を通して猛禽類が見られ、多い日は1度に数種類の鷹などを見られる貴重な場所でもあります。</p> <p>今回発表された計画は、大洪水を想定し、河川敷内を5メートル掘削するもので、良質な自然環境に深刻な影響を及ぼし、河川敷は一部の河川林地帯を除き地下水が染み出す湿地となるでしょう。植物にも、小動物にも大きな影響が出ます。それらを餌としている猛禽類なども見られなくなるでしょう。</p> <p>近年集中豪雨などによる被害の要因には、乱開発や、危険地帯への宅地造成、山林の荒廃、休耕田の増加など、人為的なものであるように思えます。洪水対策で「遊水地」はとても効果的であると思います。調節池ではなく「遊水地」として活用を望むものです。以上の理由から調節池や大規模掘削を見直されよう要望します。</p>		<p>鬼怒川合流点下流の利根川左岸側にある稲戸井調節池は、周辺にある田中調節池及び菅生調節池と一体となって洪水を調節することにより、利根川の下流部における治水安全度の向上を図る施設です。</p> <p>稲戸井調節池では、現在、周囲堤、囲ぎよう堤、越流堤、各排水施設等の調節池化整備を行うとともに、池内掘削を順次行っているところです。</p> <p>また、事業にあたっては、多様な湿地環境の再生を図るため、モニタリング調査を実施するとともに、必要に応じて、学識経験者等の意見を聴きながら、実施しているところです。</p>

受付 番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
11	40代	男性	千葉県	松戸市	<p>人口減社会を迎える日本では、今後社会構造の大きな変化が見込まれる。公的資産の適正な配分と利用が求められ、公共事業においては関係する住民の合意と理解が不可欠になる。これは河川整備事業でも同様である。</p> <p>河川法では、河川整備計画の策定において住民意見を反映させることとしているが、計画の策定のみならず、整備事業の実施においても「住民意見の反映」は重視されなければならない。しかし、従来の意見収集は「聞き置くだけ」の場合が多く、協議によって合意形成が図られるケースはきわめて少ない。</p> <p>とくに治水事業に対する流域住民の理解を深めるうえでも、多様な立場の関係者による協議の場を常設することは有用であると考え。以上の理由から、河川整備計画に、学識者、漁業関係者、河川関係のNPO、地域団体関係者などで構成される協議の場として「河川整備協議会(仮称)の設置」を盛り込むよう求める。</p>		<p>豊かでうるおいのある質の高い国民生活や、良好な環境を求める国民のニーズの増大等の最近の動きに的確に答えるため、平成9年に河川法が改正され、河川整備の基本となるべき方針に関する事項を定めた「河川整備基本方針」と、今後20～30年間の具体的な河川整備の目標や河川整備の内容を定めた「河川整備計画」を策定することとなっています。そして、河川整備計画の案を作成する場合には、必要に応じ、公聴会の開催など関係住民の意見を反映させるために必要な措置を講じることとなっています。</p> <p>このため、河川整備計画の策定にあたっては、河川のもつ特性や流域の特性、地域とのつながりなど地域の実情を踏まえ、各河川ごとに工夫を行いながら様々な方法で意見聴取を行っているところです。</p> <p>利根川水系については、1都5県にわたり流域面積が広く、河川や地域の特性に応じ多様な意見もあることから、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺うことができるように、インターネットやはがきによる意見募集や、流域を本・支川毎に5ブロックに分け、各ブロックごとに複数の会場を設けて皆様のご意見を伺ってきました。頂いたすべてのご意見等に対しては、河川管理者としての考え方をお示しするとともに、これからもこのような取り組みを通じて、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺ってまいります。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
12	60歳以上	女性	千葉県	佐倉市	<p>印旛沼を眼下に望み、おいしい地下水を飲み、これらを次の世代に引き継ぎたいと考えている流域住民として、意見を述べる。ハッ場ダムについては、半世紀以上も前の計画であり治水、利水両面においてすでに必要性のないことは、データが示すさまざまな社会状況からも明らかである。</p> <p>印旛沼を使った新利根川放水路計画は、利根川下流部の洪水10500m³/秒のうち、1000m³/秒を印旛沼を経由して、東京湾に落とすというものである。</p> <p>印旛沼は自流域の洪水処理でさえも不十分で、流入河川沿いの民家では浸水被害が起っている。この計画を実現するためには、印旛沼の大規模掘削、大水路の開削が必要だが、地域の歴史を含めた状況、環境面に及ぼす影響、及び事業費等どのように検証したか示すべきである。必要のない事業に多大な税金を注ぎこみ、次の世代に負の遺産をこれ以上残すことは、絶対に許されない。</p>		<p>ハッ場ダムは、吾妻川下流及び利根川下流地域の洪水被害の軽減、ダム下流に位置する名勝吾妻峡の良好な景観を維持する流量の確保、下流1都4県の新規都市用水の確保を目的として、利根川水系吾妻川(群馬県吾妻郡長野原町)で建設を進めている多目的ダムです。</p> <p>ハッ場ダムが完成すると、最大毎秒2,400m³の洪水調節を行い、利根川水系の上流ダム群とともに、下流部の洪水被害を軽減し、沿川地域の人々の生命・財産を守ります。また、ハッ場ダムは1都4県(東京都、群馬県、埼玉県、千葉県、茨城県)の水需要に応えるため、都市用水として最大約22m³/sを供給する施設です。現在、河川の水量が豊富なときに取水できる暫定水利権として約11m³/s(約50%)が既に使われており、早急に暫定水利権の解消を図るべく安定した水供給の水源確保が重要であると考えています。</p> <p>ハッ場ダムの建設にあたっては、周辺の自然環境に配慮し、必要に応じて専門家の意見を聴きながら環境対策等を実施しています。</p> <p>上記の理由から、河川管理者としては事業を早期に完成させ、効果を発現させる必要があると考えています。</p> <p>今後とも、ダム建設により移転を余儀なくされる住民の方々の生活再建を最優先に進め、地元関係者、関係自治体のご理解とご協力を得ながら、事業の早期完成を目指します。</p> <p>利根川水系河川整備方針では、印旛沼を調節池として活用し放水路機能を持たせることにより、花見川の現在の改修計画を大きく変えることなく、利根川から毎秒1,000m³の分派を図ることとされています。これにより利根川の放水路としての機能だけではなく、印旛沼周辺の内水被害の軽減が見込まれると考えています。</p> <p>今後は、地元関係機関や地元の要望、自然環境や地域社会への影響等も踏まえ、計画の具体化に向けて検討を進めたいと考えています。</p>

受付 番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
13	60歳 以上	女性	東京都	小平市	<p>東京都にとって、ハッ場ダムは全く不要な計画と云わざるを得ません。</p> <p>雨水利用を積極的に推進こそすれ、遠くのダムに依存する時代ではありません。現在保有している水源でさえ水余りの状況にあり、利水上も治水上も、ハッ場ダムの計画は、無駄な公共事業だと思えます。</p> <p>東京都民の年間総水使用量よりも多い総降雨量の大半を、下水に捨て去っている都市システムこそ、近年頻発している都市洪水の原因であるのは明白です。都市洪水対策を後回しにして、新期水源開発を進めるのは不合理です。</p> <p>降る雨を資源として見直し、健全な水循環を取り戻す政策を優先することによって、都市洪水及び防災に強い都市づくりを進め、水源自立都市をめざすべきです。</p>		<p>ハッ場ダムは、吾妻川下流及び利根川下流地域の洪水被害の軽減、ダム下流に位置する名勝吾妻峡の良好な景観を維持する流量の確保、下流1都4県の新規都市用水の確保を目的として、利根川水系吾妻川(群馬県吾妻郡長野原町)で建設を進めている多目的ダムです。</p> <p>ハッ場ダムが完成すると、最大毎秒2,400m³の洪水調節を行い、利根川水系の上流ダム群とともに、下流部の洪水被害を軽減し、沿川地域の人々の生命・財産を守ります。また、ハッ場ダムは1都4県(東京都、群馬県、埼玉県、千葉県、茨城県)の水需要に応えるため、都市用水として最大約22m³/sを供給する施設です。現在、河川の水量が豊富なときに取水できる暫定水利権として約11m³/s(約50%)が既に使われており、早急に暫定水利権の解消を図るべく安定した水供給の水源確保が重要であると考えています。</p> <p>ハッ場ダムの建設にあたっては、周辺の自然環境に配慮し、必要に応じて専門家の意見を聴きながら環境対策等を実施しています。</p> <p>上記の理由から、河川管理者としては事業を早期に完成させ、効果を発現させる必要があると考えています。</p> <p>今後とも、ダム建設により移転を余儀なくされる住民の方々の生活再建を最優先に進め、地元関係者、関係自治体のご理解とご協力を得ながら、事業の早期完成を目指します。</p> <p>都市部では、市街化された流域に降った大雨が地表にあふれ、都市機能を麻痺させたり、地下空間が浸水したりする被害が発生しております。このため、流域自治体においては、宅地造成や道路整備などの都市化に伴い、調節池や排水ポンプなどの整備を進めてきたところ です。</p> <p>また、このような都市部に被害をもたらす集中豪雨による雨は、降雨特性等から安定した水源とすることは大変難しいため、都県においてはダム等に水源を依存しております。国土交通省では、都県の水利用の動向を踏まえて、水資源の安定供給を図っていきたくと考えております。</p>

受付 番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
14	60歳 以上	男性	東京都	杉並区	<p>水門設備工事の談合事件で国土交通省が、中央省庁としては初めて「官製談合防止法」の適用を受けることになった。職員の天下りのために国民の血税を無駄遣いしたという悪質な犯罪だ。このような犯罪を生む土壌が国交省にはあると思う。目的達成のためには費用の問題は二の次と考えているのだ。</p> <p>今回の河川整備計画も、同じ土壌の上で策定作業が進んでいるのではないか。有識者会議を2度傍聴したが、提出された資料には、担当者が必要と考えるメニューがずらずら並んでいる。それらの実施に必要な費用については全く説明がなく、その点を質した有識者もいなかった。1円の血税も無駄にはできない時代だ。限られた予算で達成できる、真に有効な事業だけを盛り込んだ整備計画にする必要がある。</p> <p>そうした整備計画を策定するには、何が 필요한のか。納税者の立場から公述したい。</p>		<p>河川整備計画の策定にあたっては、個々の河川や地域の特性を踏まえて、堤防や遊水地、ダムなどを総合的に検討し、最も適切な組み合わせで実施することが必要と考えております。</p> <p>利根川水系河川整備計画においては、概ね50年に一回の確率で生起すると予想される洪水流量(支川は30年)を対象にして、上下流や本支川のバランスを確保しつつ、現実的に可能な限り河道で対応する施策を講じ、それ以上についてはダム等の洪水調節施設で対応することにより、効率的な治水計画を策定することとしております。</p> <p>なお、公共工事等の発注に際しては、関係法令の遵守はもとより、国民の皆様の疑惑を招かないように発注にかかる綱紀の保持を図っていきます。</p>
15	60歳 以上	女性	群馬県	板倉町	<p>重い歴史をもつ渡良瀬遊水池は、過去にいくつもの大規模土木工事が行なわれ、歴史的景観やすばらしい自然がその都度大きく損なわれてきました。</p> <p>特に谷中湖の建設は、その場所にあったオバケ沼、周辺にあった雄大な自然を失なわせ 貴重な動植物の宝庫をなくしました。今はコンクリート護岸でかこまれた人工的な水面と化しています。コンクリート護岸に加え、渡良瀬川最下流の水だめのため藻類の異常増殖による水質悪化が進み、その改善策としてさらなる土木工事でヨシ原浄化池など人工的につくっていますがその効果はあまりみられません。又冬場の谷中湖干し上げも藻類増殖の時期をずらすだけではないかと言われていました。</p> <p>次の土木工事として「治水容量増強」の名のもとに別の場所での大規模掘削工事計画があると聞き、すでに谷中湖に十分な治水容量があるのにこれ以上の自然破壊を進めるべきではないと考えます。</p>		<p>渡良瀬遊水池は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県の4県にまたがる日本で最大の遊水地で、渡良瀬川、巴波川、思川の洪水流を受け入れることにより、人口・資産の集中する利根川・江戸川下流域を守るという、治水上重要な役割を担っています。この渡良瀬遊水池は、広大なヨシ原に代表されるように、良好な動植物の生息・生育の場としての豊かな湿地が残されていることから、未だ不足している治水容量確保にあたっては、湿地の保全と再生に配慮した手法の検討を進めます。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
16	50代	男性	埼玉県	新座市	<p>利根川下流域は、かつて香取の海と呼ばれる入り江であり、周辺には大湿地帯が広がっていた。利根川の東遷が行われた以後も、利根川下流域・霞ヶ浦は八郎潟や中海・宍道湖と並ぶ豊かな汽水域であった。しかし1963年に常陸川水門が、1971年には利根川河口堰が建設され、利根川下流域・霞ヶ浦の環境は一変した。淡水化によって汽水域を代表するヤマトシジミは姿を消し、ウナギなどの回遊魚も激減、ブラックバスやアメリカナマズなど外来魚が優占するようになった。利根川河口堰の湛水域の水質は悪化の一途をたどり、2004年冬には大量の植物プランクトンが発生している。1997年に河川法が改正され、治水、利水に加え、水質・景観・生態系等を含む河川環境の整備と保全が目的に加わった。河川整備計画策定を機会に、常陸川水門、利根川河口堰の運用を改善し、利根川下流域・霞ヶ浦にかつての豊かな汽水環境と取り戻すべきである。</p>	<p>・利根川下流域の汽水環境の回復について 利根川下流域は、霞ヶ浦、手賀沼、印旛沼とともに、かつて香取の海と呼ばれた入り江であり、周辺には大湿地帯がひろがっていたが、江戸時代に利根川の東遷、明治時代には利根川の河道や堤防が整備され、1963年に常陸川水門、1971年に利根川河口堰が建設され利根川下流域及び霞ヶ浦の環境が一変した。</p> <p>・利根川河口堰、常陸水門の運用を見直し、利根川下流域と霞ヶ浦にかつての汽水環境を取り戻すべき</p>	<p>利根川河口堰は、塩害の防止を図るとともに都市用水及び農業用水の開発を目的として建設された施設です。堰の上流には都市用水及びかんがい用水の取水口がありますが、これらの取水に影響が及ばない範囲で堰の操作を行っています。操作をしている割合は、管理開始から10年の平均(昭和46年～昭和55年)で約6割となっています。近年10ヶ年(平成9年～平成18年の平均)の操作をしている割合は約7割となっています。</p> <p>塩害を防止するため、利根川河口堰の塩素イオン濃度の管理基準値は、26km地点表層で500ppm程度となっています。この基準値を確実に守るための操作を常に行っており、管理開始以降、高塩分による取水停止は発生していません。</p> <p>利根川河口堰の操作は、流入量、河口の潮位等の自然条件に大きく左右され、これまで水産資源の保護を考慮しつつ、塩害防止するための操作を行ってきました。今後も引き続き、この範囲内において、堰操作による水質改善や魚類の誘導放流についても検討していきます。</p> <p>常陸川水門は、年間約100回、1回あたり数時間の開放操作が現在行われていますが、直上流の常陸川だけでも20件の農業用水の取水があり、塩分の遡上につながる運用方法には十分な調査と検討が必要と考えます。常陸川水門は、利根川からの洪水の逆流の及び潮水の遡上を防止する目的で設置されたもので、治水・利水の目的を達成するとともに湖の水理特性を踏まえ環境に配慮した水位管理を行っていきます。</p> <p>また魚類の遡上を目的に汽水域に適する呼び水水路を併設する緩勾配式魚道を設置します。窒素・リン対策として外来種等の捕獲を行い、増加する外来種対策と併せて窒素・リンの持ち出しによる水質改善を図る方策に取り組みます。</p>

受付 番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
						<p>・河川整備計画に対する住民意見の反映方法について 学識経験者に関係住民を加えた流域委員会をつくり、また、傍聴者の発言の機会を確保すべき。</p>	<p>豊かでうるおいのある質の高い国民生活や、良好な環境を求める国民のニーズの増大等の最近の動きに的確に答えるため、平成9年に河川法が改正され、河川整備の基本となるべき方針に関する事項を定めた「河川整備基本方針」と、今後20～30年間の具体的な河川整備の目標や河川整備の内容を定めた「河川整備計画」を策定することとなっています。そして、河川整備計画の案を作成する場合には、必要に応じ、公聴会の開催など関係住民の意見を反映させるために必要な措置を講じることとなっています。</p> <p>このため、河川整備計画の策定にあたっては、河川のもつ特性や流域の特性、地域とのつながりなど地域の実情を踏まえ、各河川ごとに工夫を行いながら様々な方法で意見聴取を行っているところです。</p> <p>利根川水系については、1都5県にわたり流域面積が広く、河川や地域の特性に応じ多様な意見もあることから、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺うことができるように、インターネットやはがきによる意見募集や、流域を本・支川毎に5ブロックに分け、各ブロックごとに複数の会場を設けて皆様のご意見を伺ってきました。頂いたすべてのご意見等に対しては、河川管理者としての考え方をお示しするとともに、これからもこのような取り組みを通じて、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺ってまいります。</p>
17	50代	男性	栃木県	真岡市	<p>1997年に改正された河川法は、治水・利水の他に、河川環境の整備と保全の重要性を認めたものであった。利根川水系の新たな河川整備計画は、当然その新河川法の精神に基づいて策定されなければならない。</p> <p>旧建設省時代に計画され実施されて、しばしば自然環境と生態系の破壊をもたらした数々の河川開発事業に対しての検証と評価も、きちんとなされなければならない。むしろ現代では必要性が全く失われた、大規模なダム計画の中止は当然であり、新たな整備計画で継承してはならない。新たな計画で、今後長期にわたり利根川水系で取り組まれるべき河川事業の大きな柱は、河川本来の自然環境・生態系の保全・再生・復元にある。そこに新河川法の意義も見いだされるのである。</p>	<p>利根川水系河川整備計画の検討に当たっては、利根川流域の歴史及び文化などの地域特性も踏まえて、治水・利水・河川環境のそれぞれの目標が調和しながら達成されるよう、総合的な視点で検討していきます。</p>	

受付 番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
18	50代	男性	栃木県	鹿沼市	<p>思川開発事業(南摩ダム)は、治水上も利水上も不要である。思川の河川整備計画では30分の1確率と聞か、そのために総貯水容量5千百万m³のダムは不要である。南摩川は年間流量がダム予定地で1千万m³程度の小河川である上、南摩ダムの集水面積は12km²しかないので、思川への治水効果はあるはずがない。</p> <p>構想から42年を経て、首都圏の水需要は減少方向にあり、新たな水源開発は不要である。都は1994年に思川開発から撤退し、参画する栃木、埼玉、茨城、千葉の各県は余剰水源を抱えている。栃木県では県南部にその開発水を供給することとなっているが、そのための広域水道施設計画は存在せず、単に栃木県が開発水源を抱えるだけの不要不急の事業である。思川開発では黒川と大芦川から導水する予定だが、それでも南摩ダムに水がたまる見込みはない。</p> <p>思川開発は鹿沼市南摩地区の貴重な生態系を破壊する。整備計画に思川開発を入れることは間違いである。</p>		<p>思川開発事業は南摩ダムと導水路の建設により、思川流域及び利根川本川下流域の洪水被害の軽減を図り、また、河川の維持や既得かんがい用水などの取水に必要な水量の確保を図るとともに栃木県及び埼玉県などの新規都市用水の確保、異常渇水時の緊急水の補給を目的として、利根川水系思川の支川南摩川(栃木県鹿沼市)で建設を進めている事業です。</p> <p>洪水時には、ダムサイト地点で最大125m³/sの洪水を調節し、思川流域及び利根川本川下流域の洪水を低減します。</p> <p>また、思川開発事業では4県(埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県)の水需要に応えるため、都市用水として最大約3m³/sを供給する施設です。現在、河川の水量が豊富なときに取水できる暫定水利権として約1m³/s(約30%)が既に使われており、早急に暫定水利権の解消を図るべく安定した水供給の水源確保が重要であると考えています。</p> <p>思川開発では黒川と大芦川から導水し、南摩ダムに水をため、黒川と大芦川の正常流量が下回った場合、南摩ダムから補給するしくみになっています。南摩ダム建設にあたり、周辺自然環境に配慮し、必要に応じて専門家の意見を聴きながら環境対策を実施します。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
19	60歳以上	男性	群馬県	長野原町	<p>私は平成2年4月に長野原町長に就任した。なぜこんなに地元が苦しんでハツ場ダムを作らなければならないのか勉強したところ、日本は火山国で列島の真ん中に山脈があり、雨や雪が降り、治山治水が不可欠であり利水のおかげで今日があることを知った。</p> <p>ハツ場ダムは340世帯1000人の水没者と国道、鉄道と川原湯温泉が水沈する。町はこのダムで絶対に犠牲になってはいけないとの思いでダム専従助役を設け、365日中300回というダム会議を行い平成4年7月基本協定と補償調査協定を結び、東京、千葉、埼玉、茨城、群馬2700万人の水を確保し『利水』と『洪水調節』を目的としたダムが進むこととなった。</p> <p>地元としては平成13年補償基準が結ばれ一日も早い代替地完成並びに事業の完成を望んでいる。『飲水思源』という言葉の通り、下流方々も、水を飲む時には水の源である上流の方々の苦勞を考えて使って欲しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・反対、建設の両面にたってハツ場ダムをいろいろな観点から理解をしてみました。 ・私たちがハツ場ダムをどうして建設しなくてはならないのか、どうして下流の利水のために犠牲にならないか、どうして下流の利水のために犠牲にならないかか考えてほしい。 ・周辺の住民の生活再建が心配である。 ・ハツ場ダムのこれからの進捗状況に理解を賜ります。 	<p>ハツ場ダム建設事業については、地元生活再建対策を最優先として、国道、県道、JR及び代替地事業について実施しているところです。生活再建や地域の振興対策については、地元等からの切実なる要望を真摯に受け止め、国土交通省としても、最大限努力する所存であります。そのためには、地権者の皆様、地元関係の皆様、長野原町、長野原町議会の皆様のご支援、ご協力が不可欠でもありません。地元住民の生活再建に必要な基盤を一日も早く整備し、ダム本体も工事を早急に進め、早期の効果発現を目指します。</p>
20	60歳以上	男性	群馬県	板倉町	<p>(1) 堤防強化対策</p> <p>・治水対策一板倉町は利根川、渡良瀬川にはさまれた低湿地域であり、先人達は度重なる洪水で苦しんできた。したがって町の最大の課題は治水対策である。利根川の河川整備計画にあたっては</p> <p>(2) 渡良瀬遊水地の掘削による治水容量の確保</p> <p>(3) 防災ステーションの整備(現在1カ所整備中であるが、長期的にはもう一カ所必要である。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・河川の堤防強化、整備等に全力を注いでもらいたい。 ・もし掘削が必要だったら掘削をしてほしい。 ・もし掘削が必要だったら掘削をしてほしい。 ・何とかその掘削を湿地の再生につなげていただきたいという強い願望があります。 	<p>渡良瀬遊水地は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県との4県にまたがる日本で最大の遊水地で、渡良瀬川、巴波川、思川の洪水流を受け入れることにより、人口・資産の集中する利根川・江戸川下流域を守るとい、治水上重要な役割を担っています。この渡良瀬遊水地は、広大なヨシ原に代表されるように、良好な動植物の生息・生育の場としての豊かな湿地が残されていることから、未だ不足している治水容量確保にあたっては、湿地の保全と再生に配慮した手法の検討を進めます。</p> <p>迅速な緊急復旧活動の拠点となる河川防災ステーションの設置について、関係自治体と調整を行い一体となって整備を行います。</p>

受付 番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
					<p>(1) 渡良瀬遊水地の掘削に合わせての湿地の確保。多種多様な生物が生息する環境学習の場の確保</p> <p>(2) 水質改善はもちろんであるが、子供達が水に親しめる親水ゾーンの整備</p> <p>(3) 河川景観を考慮した整備計画</p> <p>(4) 長期的には化石燃料の枯渇が心配されている。舟運も視野に入れた計画が必要では</p>	<p>・何とかその掘削を湿地の再生につなげていただきたいという強い願望があります。・すばらしい湿地をつくって、子供たちに自由に遊んでもらう。また、その中で環境学習をしてもらいたい。それが可能なのが、私は渡良瀬遊水地ではなかろうかと考えている。</p> <p>・すばらしい湿地をつくって、子供たちに自由に遊んでもらう。また、その中で環境学習をしてもらいたい。それが可能なのが、私は渡良瀬遊水地ではなかろうかと考えている。</p> <p>・これからの河川整備にあたっては、ぜひ景観も重要視したそういった整備をお願いしたい。</p>	<p>渡良瀬遊水地は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県 の4県にまたがる日本で最大の遊水地で、渡良瀬川、巴波川、思川の洪水流を受け入れることにより、人口・資産の集中する利根川・江戸川下流域を守るとい、治水上重要な役割を担っています。この渡良瀬遊水地は、広大なヨシ原に代表されるように、良好な動植物の生息・生育の場としての豊かな湿地が残されていることから、未だ不足している治水容量確保にあたっては、湿地の保全と再生に配慮した手法の検討を進めます。</p>

受付 番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
21	60歳 以上	男性	埼玉県	所沢市	<p>○公共事業は、経済社会的効果、環境負荷を含めて、その与える影響は極めて大きい。一方、日本の財政破綻、環境破壊の進行、価値観の多様化を考えると、公共事業の計画策定・実施に当たっては従来の延長線上でなく、ゼロベースの見直しが不可欠であり、現行法の枠内で充分対応可能である。</p> <p>○計画策定上配慮すべき点は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済社会面から環境負荷に及ぶ必要性の科学低評価 2. 費用対効果の客観的評価 3. ゼロを含む複数選択肢の比較及び優先順位の設定 <p>○方法論として配慮すべき点は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報公開と住民参加・行政や限られた分野の学識経験者の知見では限界がある。情報公開を徹底した上で、広く住民・市民団体の意見を求めるべきである。時間がかかるなどの非効率性は、民主主義に伴うコストである。 2. 公正な競争・但し、安かろう・悪かろうを排除するための厳正なチェックの仕組みは不可欠である。 		<p>利根川水系の河川整備計画の案の作成にあたっては、治水、利水、環境面の目標を達成するため、限られた期間に所要の効果の発現が可能なメニューを検討するとともに、コスト、上下流や左右岸のバランス、実現可能性などを総合的に勘案しながら検討していきます。</p>

受付 番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
22	50代	男性	千葉県	市川市	<p>現計画案は、</p> <p>①1997年に河川法が改正され環境重視の姿勢と住民意見の尊重が明記されたにもかかわらず、結局のところ治水第一の計画であって環境が疎かにされている</p> <p>②公聴会実施や意見書募集で住民意見を反映させるという方法をとるようにはなったものの、この方法では住民の意見が吸い上げられない可能性が大きい</p> <p>③印旛沼経由の新利根川放水路計画は、千葉県及び千葉県民が進めている印旛沼再生計画と整合性がありません。 以上のような理由から私は現河川整備計画案を認めることができません。</p>		<p>①利根川水系河川整備計画の検討に当たっては、利根川流域の歴史及び文化などの地域特性も踏まえて、治水・利水・河川環境のそれぞれの目標が調和しながら達成されるよう、総合的な視点で検討していきます。</p> <p>②豊かでうるおいのある質の高い国民生活や、良好な環境を求める国民のニーズの増大等の最近の動きに的確に答えるため、平成9年に河川法が改正され、河川整備の基本となるべき方針に関する事項を定めた「河川整備基本方針」と、今後20～30年間の具体的な河川整備の目標や河川整備の内容を定めた「河川整備計画」を策定することとなっています。そして、河川整備計画の案を作成する場合には、必要に応じ、公聴会の開催など関係住民の意見を反映させるために必要な措置を講じることとなっています。</p> <p>このため、河川整備計画の策定にあたっては、河川のもつ特性や流域の特性、地域とのつながりなど地域の実情を踏まえ、各河川ごとに工夫を行いながら様々な方法で意見聴取を行っているところです。</p> <p>利根川水系については、1都5県にわたり流域面積が広く、河川や地域の特性に応じ多様な意見もあることから、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺うことができるように、インターネットやはがきによる意見募集や、流域を本・支川毎に5ブロックに分け、各ブロックごとに複数の会場を設けて皆様のご意見を伺ってきました。頂いたすべてのご意見等に対しては、河川管理者としての考え方を示すとともに、これからもこのような取り組みを通じて、できるだけ多くの皆様から幅広く丁寧にご意見を伺っていきます。</p> <p>③利根川水系河川整備方針では、印旛沼を調節池として活用し放水路機能を持たせることにより、花見川の現在の改修計画を大きく変えることなく、利根川から毎秒1,000m³の分派を図ることとされています。これにより利根川の放水路としての機能だけでなく、印旛沼周辺の内水被害の軽減が見込まれると考えています。</p> <p>今後は、地元関係機関や地元の要望、自然環境や地域社会への影響等も踏まえ、計画の具体化に向けて検討を進めたいと考えています。</p>

受付 番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
23	60歳 以上	男性	千葉県	松戸市	<p>1. 河川敷の有効利用の拡大 現在はゴルフ場、グラウンドなどに利用されているが、市民に一坪菜園として活用出来ないか。市民が今まで以上に川にしたしめる。そのための道路も必要である。</p> <p>2. ビオトープの増設促進 地球環境にも最適であり賛成。特に市民が水に手をひたせる小川を河川敷内に引くとよい。</p> <p>3. スーパー堤防の促進 安心と美化からしてよい。出来れば天板の車道を平面にして乗用車を運転していて川が見えることが望ましい。川が見えることにより心やすらぐだろう。</p>		<p>1 河川敷の占用は、原則として国又は地方公共団体など及び非営利の愛好者団体などに限られていますが、市町村などの公園計画の中で一坪菜園として位置付け利用することもあります。</p> <p>2 長大かつ広大な利根川において多様な生態系を育む基盤となる礫河原・瀬淵・ヨシ原・干潟など良好な河川環境の保全・再生に努め、上流から海域まで動植物の生息・生育・繁殖環境の縦断的な連続性の確保に努めるとともに、流域に残る湿地、緑地などと河川環境を水系の骨格としてつなぐネットワーク化を推進します。</p> <p>その中で、自然ともふれあえるビオトープの造成などについても、取り組んでいきます。</p> <p>3 高規格堤防(スーパー堤防)は、後背地が広くなだらかな構造であることから、堤防の高さを超えるような洪水が来ても決壊しない、水が浸透してもこわれぬ、地震に対して強いといった特徴を有しています。</p> <p>高規格堤防整備の整備は、まちづくりや区画整理等の面的な整備と一体的に実施する必要があることから、面的整備の動向について沿川自治体などと情報の共有化に努め、機会を捉えた着実な整備を実施して行くこととしています。</p> <p>また、高規格堤防の後背地側はその構造上通常の堤防より格段に高い位置にあり、堤防直近の道路であれば視界が良好となることはご指摘の通りです。</p>

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
24	60歳以上	男性	茨城県	小美玉市	<p>霞ヶ浦導水事業は水質浄化、既得用水の補給、新規都市用水の開発を目的に実施されている。そのメリットであるが、水質浄化については予測から時間が経過し状況が大きく変わり浄化効果は全く見込めない。那珂川から霞ヶ浦への導水はアオコが発生しなくなった霞ヶ浦へアオコの発生を促しCODの上昇を促す。上昇したCODを削減するために無意味な莫大な浄化予算を必要とすることになる。</p> <p>既得用水の補完は利根水および那珂川両水系の降雨が同傾向を示していることから効果が期待できない。水需要については大幅な水余りが明らかになっている。以上本事業のメリットはゼロである。</p>		<p>霞ヶ浦導水事業は、霞ヶ浦と桜川等の水質浄化、那珂川と利根川へ既得用水等の補給、茨城県等の新規都市用水の確保を目的として、那珂川下流部、霞ヶ浦及び利根川下流部を連絡する流況調整河川(流況の異なる2つ以上の河川を水路で結び、相互の導水を行い、それぞれの河川の流況を改善する施設。)を建設するものです。</p> <p>霞ヶ浦導水が完成すると、那珂川から最大毎秒15m³、利根川から最大毎秒25m³を霞ヶ浦に導水することにより、流域対策、湖内対策などと相まって、霞ヶ浦の水質浄化を図ります。更に那珂川からの導水量のうち最大毎秒3m³を桜川に導水することで水質浄化を図り、千波湖の水質浄化にも寄与します。</p> <p>また、那珂川の渇水時には、利根川下流部及び霞ヶ浦から最大毎秒11m³を、利根川の渇水時には、那珂川下流部及び霞ヶ浦から最大毎秒25m³を導水することにより、渇水による被害を軽減させ、川の環境を守ります。</p> <p>更に、1都3県(茨城県、埼玉県、千葉県、東京都)の水需給に応えるため、都市用水として最大約9m³/sを供給する施設です。現在、河川の水量が豊富なときに取水できる暫定豊水水利権として毎秒約3m³(約30%)が既に使われており、早急に暫定豊水水利権の解消を図るべく安定した水供給の水源が駆歩が重要であると考えています。霞ヶ浦導水の建設にあたっては、周辺の自然環境に配慮し、必要に応じて専門家の意見を聴きながら環境対策等を実施しています。</p> <p>上記の理由から、河川管理者としては事業を早期に完成させ、効果を発現させる必要があると考えています。</p> <p>今後とも、地元関係者、関係自治体のご理解とご協力を得ながら、早期完成を目指します。</p> <p>利根川水系及び荒川水系における水利用は、水需給の逼迫性から、河川水が豊富なときだけしか取水できない不安定な取水に依存している状況であり、たびたび渇水調整を余儀なくされているため、水資源施設の早期整備による安定的な水資源の確保が必要となっています。</p> <p>「利根川水系及び荒川水系における水資源開発基本計画の全部変更(案)」(国土審議会 水資源分科会 利根川・荒川部会資料)によれば、平成27年度を目途とする水の需要及び供給の目標として、「水道事業及び工業用水道事業がこの水系に依存する需要の見通しは毎秒約176立方メートルである。」とし、これらの水需要に対し、新たな水資源開発のための施設とこれまで整備した施設等により、「供給が可能と見込まれる水道用水及び工業用水の水量は、近年の20年に2番目の規模の渇水時における流況を基にすれば毎秒約169立方メートルとなる。なお、計画当時の流況を基にすれば、その水量は毎秒約197立方メートルである。」とされています。</p>

受付 番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
					デメリットについてみる。霞ヶ浦からの送水は、那珂川を汚染し、サケ、アユの生産を、涸沼についてはヤマトシジミの生産を減少させる。また、霞ヶ浦の外来種を那珂川水系へ放散し那珂川水系の固有の生態系を破壊するという危険極まりない結果をまねく。本事業は百害あって一利なしである。		<ul style="list-style-type: none"> ・霞ヶ浦から那珂川への送水にあたり、砂ろ過施設を整備し、その中を通過させることにより、水中の浮遊物質の量を減少させます。またこの砂ろ過施設を通水させることにより、ブラックバス等の魚卵を捕捉できることを実験で確認しています。 ・霞ヶ浦導水事業については、上記の理由から、早期に完成させ、効果を発現させる必要があると考えております。
25	50代	男性	埼玉県	川口市	<ol style="list-style-type: none"> 1. 私と利根川(利根川で産湯をつかった私)。 2. 私と建設省の思い出。 3. 河川事業に思う事。 4. さらなる利根川との関係 		※公述にご出席されず公述希望届出書のご提出のみで、ご意見の主旨が不明のため、回答はいたしません。

受付番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
26	60歳以上	男性	千葉県	旭市	<p>第1は、水田農業に最も重要なかんがい用水について、近年頻発する渇水と営農の変化に伴う取水に対する課題であります。</p> <p>第2は、頭首工など農業用水の水利施設が、河床の低下や局地的上昇に悩むなど、河床の管理に関わる課題であります。</p>	<p>●九十九里浜の水田地帯は大きな川がなく、大規模なポンプで利根川から水を引いて改善された</p> <p>■利根川からの水の手当て、取水の問題</p> <p>○米栽培に必要な水量や時期は、技術の進歩や消費者の嗜好の変化で変わる</p> <p>○食糧安全保障の確保や食糧供給力の強化のため新技術が開発されて導入が求められている</p> <p>○これらの対応するため用水事情の改善が必要である</p> <p>○営農技術と営農体系自体の変化に対応した適切な作物の栽培を行うには的確な水利用が必要となる</p> <p>●水利権の総量規制枠を超えた際、豊水を応急的に整理する必要がある</p> <p>●現在の暫定豊水水利権であっても、互譲の精神で水不足を乗り切っているやり方を守ることが必要である</p> <p>■現状の水利権水量では、依然として最も必要な需要期、4月、5月には取水量が少なくなるので、対応できる改善が必要である</p> <p>■河床の問題</p> <p>○河床低下は頭首工等の露出や取水できなくなり揚水ポンプを改造しなければならない事態となる</p> <p>○河床上昇は頭首工の維持や取水が困難になったりする</p> <p>●治水計画の将来の下げた河床に合わせて頭首工をつくると、洪水時堰の上に流れてきた石やがれきがたまってゲートが閉まらなくなったりする</p>	<p>・現在の水利権は、河川法23条に基づき、許可された流水の占用の権利内で取水することが可能です。利根川は、首都圏の水道水源の約2/3を供給していますが、その多くは暫定水利権となっており、取水停止することが出来ない状況となっています。</p> <p>また、渇水時には利水者間の適切な水利用がなされるよう、「利根川水系渇水対策連絡協議会」などを開催し、関係利水者による円滑な渇水調整が行われるように必要な情報の提供に努めます。</p> <p>・河床の問題については、利根川を良好な状態で維持管理していくためには、河川のみならず源流から河口までの流域全体及び海域を視野に入れた総合的な流域のマネジメントが必要であるため、水量、水質、土砂及び動植物などの調査はもとより、広く流域の状態の把握に努めます。</p> <p>また、頭首工などを設置にあたっては、将来の手戻りを考慮し下げた河床高に合わせて設置する場合は、上下流の河床高を考慮し取水出来るようにします。</p>

受付 番号	年代	性別	住所		公述希望届出書	公述時の主な意見	回答
			都・県	市区町村			
					<p>第3は、治水対策に関して例えば、農業水利事業が予定されている印旛沼の放水路・調整池利用や、優良農地が遊水池化される計画、豪雨の際、流域水田の治水機能が一方的に評価期待されていることなどに懸念を感じております。</p> <p>最後に、水質については、関係者の努力で改善が進んできましたが、更に水質の改善が必要となっております。</p>	<p>■農地や農業水利施設が治水対策に利用される問題 ○印旛沼を調節池としたり、烏川での農地を洪水調節池として利用する計画は、農業を営む者や地域に住む人々に事前に相談がないことに不安を感じる</p>	<p>・利根川放水路計画は、印旛沼を調節池として活用し放水路機能を持たせることにより、花見川の現在の改修計画を大きく変えることなく、印旛沼周辺の内水被害の軽減が見込まれると考えています。また、分派した洪水を印旛沼内に滞留させないことにより、植物プランクトンの増殖が抑制されるなどの水質改善の効果も期待されます。 今後は、地元関係機関や地元の要望、自然環境や地域社会への影響等も踏まえ、計画の具体化に向けて検討を進めたいと考えています。</p>
27	60歳以上	女性			<p>私は岩手の山、川、海の懐に抱かれて育ててもらいました。子供の頃祖母が「山の木は水がめなのだよ水は命だ、だからむやみに木を切り、山を削り川を堰き止めるなどと自然に抗うと子々孫々に竹箆返しがくるよ」と言っていました。 人間は100年しか生きられない中で数万年もの間命を支えてきてくれている自然体系を破壊してしまうことの傲慢さは許されるものではないでしょう。人間も生き物であるという謙虚さを持ち続けて欲しいです。そして、今日も利根川と江戸川が悠々と流れています。川は心の故郷と謳っている明治時代の野田の作曲家山中直治さんは次のようにうたっています。利根川、霧深き毛野の山より豊かにも堪え流れて幾片か雲の越えけんああなつかしふるさとの色ぞ利根川。このうたからは利根川の上流にダムが出来ると想像することすらもできません。</p>		<p>日本を代表する大河”利根川”は、古くから政治・経済・文化の中心地であったかつての江戸、現在の東京を守るため、さまざまな治水事業が進められてきました。利根川東遷とも呼ばれている事業はその代表的なものです。東京湾に注いでいた利根川を銚子沖に注ぐ現在の形にしたのは江戸時代初期のことです。その後も、明治時代から現在に至るまで、流域住民の生命と財産を守るため、様々な治水事業は行われてきました。 今回策定する河川整備計画については、このような治水の歴史を踏まえつつ、概ね50年に一回の確率で生起すると予想される洪水流量(支川は30年)を対象にして、上下流や本支川のバランスを確保しつつ、河道の整備と洪水調節施設の整備をバランスよく行うことにより、効率的な治水計画を策定することとしております。</p>